

2013/08/04 礼拝メッセージ 近藤修司 牧師

主 題：クリスチャン3

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章5節

皆さんもよく覚えておられるみことばですが、イエスが弟子たちにこのように言われました。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」（使徒の働き1：8）。「あなたはわたしの証人だ」とイエスは弟子たちにお話しになりました。そして、マルコの福音書の最後の箇所には「...『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』と記されています。そして、私たちが注目しなければいけないのは、そのメッセージを聞いた人たちは実際に出て行ってイエス・キリストの福音を語ったということです。ですから、神が我々に何を望んでおられるのかは明らかです。私たちは出て行ってすばらしい主を、この救いを人々に宣べ伝え続けていくのです。

クリスチャンは主イエス・キリストの証人であると言います。私たちはこの世にあってこのすばらしい主を、この救いを明らかにしていくという務めを頂きました。その働きを為していくために私たちはひとり一人が主に喜ばれる者として成長していくことが必要です。私たちが成長することによって、私たちを変えてくださっている主が世の中に明らかにされていきます。また同時に、私たちの教会が主の栄光を現わすものとして成長していくなら、その働きは私たちを通して為されていきます。そのことを主が望んでおられます。そのことをよく知っていたパウロは、このコリントの教会に対して「神の恵みを覚えなさい」と呼びかけました。神がクリスチャンであるあなたにどんなにすばらしい祝福を与えてくださったのか覚えなさいと。ですから、信仰の大切なことの一つは、我々クリスチャンが神からどのような祝福を頂いたのか、そのことを覚えることです。そして、それを忘れないことです。

パウロはここに10個の祝福を記してくれました。そのことをしっかり覚えるようにと言います。

☆「クリスチャン」に与えられた10の祝福

1. 神に属する者 2節
2. 神によって聖められた者 2節
3. 神から恵みと平安を頂いた者 3節
4. 神によって救われた者 4節
5. 神によって祝福された者 5節

前回、私たちは5節のみことばを学び始めました。今日はもう一度5節のみことばをご覧ください。

「というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。」、パウロが教えたかったことは、私たちクリスチャンに神はもの凄い祝福を与えてくださっているということです。

1) あらゆる点

あらゆる点において、神はあなたを「豊かな者とされた」とパウロは言いました。それがいったいどういう祝福なのか？それを見て来ました。「あらゆる点」というのは、あなたのすべての必要が満たされるということです。この約束を頂いた私たちクリスチャンは、どんな時にでもその約束に立って歩むことができるのです。

(1) この地上における日々の生活において : 最高の羊飼いを得た

この地上にあって日々の生活におけるすべての必要を神が満たしてくださるのです。みことばが繰り返し私たちに教えることは、あなたには最高の羊飼いが与えられた、その方が確実にあなたを養ってくれ、確実に守り導いてくれるということです。日々の生活においてすべての必要が満たされると、そのことを考える時に、私たちは次のことを考えさせられます。

A. パウロは「主は私たちの内的満足を与えてくださる」ことを教えた

必要を満たすと言っても、ただ、外側だけの必要ではありません。私たちの内側の必要も満たしてくださるのです。

B. パウロは「主は私たちの物質的必要を与えてくださる」ことを教えた

内的必要、内的満足も、そして、物質的な様々な必要も与えてくれます。神はそれらを与えると約束してくださったのです。

恐らく、この二つのことに関しては、皆さんが日々の生活を通して教えられ続けていることでしょう。いろんな面で物質的なものが与えられた、いろんな時に神は内的満足を与えてくださったと、それを考えるだけで、私たちクリスチャンは何とすばらしい祝福を神から頂いたことか、そのことを思い、また、そのことを感謝するはずです。ここにおられるクリスチャンはそのことを常に神に感謝されているはずです。どうですか、皆さん？私たちクリスチャンの交わりの中ですばらしいことの一つは、人がどのようにしてこの救いに与ったかという証を聞くことだと思いませんか？どのようにして罪から救われてこの救いに与ったのかということを知ること、この証は私たちの心を励まし、私たちの心に新たな喜びをもたらしてくれます。人の自慢話などはどうでもいいことです。私たちが聞きたいことは、神はどんなことをされたのか、どんなことをされているのかということです。神のみわざを聞く時に私たちの心は喜びにあふれていきます。

A. 主が与えてくださる「内的満足」に関して ピリピ4：11-13

パウロは私たちに、彼自身がいつも神によって内的満足、内側の満足を得ていたということを話してくれています。ピリピ人への手紙4章を見てください。11-13節「:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。:12 私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。:13 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」。確かに、パウロは非常に豊かでしたが、同時に、考えられないような非常な辛さ乏しさを経験しています。皆さんがご存じのように、パウロは人が羨むような家系に生まれていました。ベニヤミンの一族です。非常に裕福な家庭環境に生まれて最高の教育を受けました。一世紀における最大のラビ、教師であったガマリエルのもとにおいてパウロは学びを受けていました。そのようなユダヤ人としての教育だけでなく、パウロが生まれ育った町はギリシャですから、ヘレニズム文化の影響も受けて、そのような教育も受けている訳です。彼はありとあらゆる教育を受けていました。しかも、ローマ市民であるという特権階級にもいたのです。語学も堪能でした。ですから、彼を見た時に人々はきっと思ったでしょう。「幸せだろうな。すべての点で恵まれている。すべての点で人々が羨むような存在である」と。確かに、イエス・キリストを信じる前の彼の生活はそうでした。

しかし、イエス・キリストを信じてからの生活はそれとは全く違うものでした。彼の生活につきまとうたのは迫害と苦しみでした。彼はこのように言っています。Ⅱコリント11：23-28「彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。:

24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、:25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。:26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、:27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。:28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。」と、信仰者としてクリスチャンとしての大変な生活を彼自身はこのように経験したのです。恐らく、私たちはそのようなことを経験したことはありません。ムチで打たれたこともないし、死に直面したこともないし、信仰ゆえに投獄されたこともないし、余りの空腹で、しかも寒さの中凍えていたと、そのような経験は私たちにはないでしょう。

a) 私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました 11節

このようにパウロの生活は一変したのです。大変な苦しみの中から物質的に豊かなすばらしい生活に移ったのならまだしも、その逆でした。人間的に言うなら、幸せの絶頂にいたパウロが不幸のどん底にたたき落とされたという状態です。そのパウロがこのような証を今私たちにしてくれたのです。「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」と。彼が使った「満ち足りる」ということばは「内面が充足している、本当の満足」ということです。しかも、パウロはこの前後の動詞を現在形で使っています。つまり、彼は「確かに、そのような大変な状況にあるけれど、私の内面は満ちあふれている。私の内面は充足している。すべての必要が与えられている。本当に内的に満足している。」ということです。そのような心の状態が継続しているというのがパウロの証なのです。

しかも、彼はこう言います。「満ち足りることを学びました。」と。この「学びました」という動詞の時制も面白いです。アオリストという時制を使ってパウロが強調したかったのは、「ある過程が完了した、あるプロセスが完了した、プロセスが終了した」ということです。つまり、彼はいろいろなことを考えて来たけれど、それが完了した、終了したと言うのです。「どのようにして内的充足を得るか？どのようにして心の満足を得るか？この疑問に対して私は終止符を打った。なぜなら、私は本当の満足を得たからだ。」と、それがパウロがこのピリピ4：11で語ったメッセージです。

ですから、パウロはいろいろなことをもって内的充足を、心の満足を得ようとしていました。人々が「きっとパウロは裕福だから...」、それも求めたでしょう。「彼は非常に優秀だから...」、それも求めたかもしれません。学問が、また、地位が...と。しかし、パウロは「そのようなものは私の内的充足を満たしてくれない。」と言いました。だから、内側の満足を得るためにいろいろなことを追い求めたけれど、それに終止符を打ったと言うのです。

いったい、いつそのようなことが起こったのでしょうか？主イエス・キリストを信じて救いに与った時です。同じピリピ3：8をご覧ください。「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。それは、私には、キリストを得、また、」と記されています。明らかに、パウロはここで二つのことを対比しています。一つは「イエス・キリストを知ったこと」、つまり、この救いに与ったことの救いの喜びです。では、それと比較していることは何でしょう？「それ以外のもの」です。彼自身に本当の満足をもたらすであろうと思って追い求めて来たすべてのもの、物質的なありとあらゆるもの、それらを比較した時に結論は明らかでした。イエス・キリストを信じ、この救いに与ったすばらしさ、これと比較することの出来るものは世の中に存在していないということです。です

から、パウロは4章で教えているのです。どのようにして内的充足を得たのか？あなたはその心の満足をもどのようにして得ることが出来たのですか、パウロ？と。そのように問いかけるならパウロはこのように答えるでしょう。「イエス・キリストを信じることによって私はそれを得た。」と。ということは、皆さん、クリスチャンというにはそのような内的充足を、心の満足を持って生きている人たちなのです。パウロがそうだったから...、では、あなたはどうか？です。

b) あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています 12節

もう一つ、「満ち足りたことを学びました」と11節で言った後パウロは、12節で「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」と続けています。「秘訣を心得ています」、「秘訣、カギ」です。あらゆる境遇に対しても心の満足を失わないカギ、秘訣です。どんな時でも心の満足を持って生きていくことのできるその秘訣です。心の満足を失うことがない、その秘訣をパウロは知っていると言います。しかも、この「心得ています」という動詞は完了形を使っています。つまり、パウロは「その秘訣を私は得た。そして、その結果が今も継続して続いています。」と言うのです。

パウロが言いたいことをもう一度復習してみると、「私がイエスを信じることによって得たこのすばらしさは、それ以外のものとは比較できません。私はすばらしい内的満足を神から与えられた。それが与えられただけでなく、私はそれを失わない秘訣を教えられた。そして、今もその秘訣をもってあらゆる境遇にあっても喜びを失わないように私は対処している、対処し続けている。」です。

◎パウロは信仰生活を通してどのような秘訣を学んだのか？

1) 神だけが本当の満足を与えてくださるお方だということを学んだ

今、私たちが学んでいることは「内的充足、内側の満足、心の満足」です。パウロが学んだのは、それを与えてくれるのは神しかないということです。なぜなら、本当の満足は本当の満足を持っておられた方しか与えることが出来ないからです。もし、あなたが本当の満足を得たいなら、いつもいろんなことに思い煩っている人に聞きますか？いろんなことに悩んでいる人に「どうすれば心の満足を得ることが出来ますか？」とは聞きません。その人はせっかく神が心の満足を与えてくださっているのにそれを持ち続けていないからです。そんな人に私たちは聞きません。私たちが聞こうとするのは、喜びを持って満足を持って歩み続けている人です。では、だれにそれを聞きますか？どんな時にも喜びを失うことなく、どんな時にも心の満足をしておられた方、それはイエスではないですか！？イエスだけです！！十字架にお架かりになっている時、そこでイエスは愚痴を漏らしていましたか？「どうして私がこんな目に遭わなければいけないのか？だれのために死んでいると思っているのか！」など、そんなことをイエスは言われたでしょうか？

イザヤがそのことをこのように教えてくれています。イザヤ書53：11「彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。」と。イザヤは何のことを言っているのでしょうか？「救い」のことです。つまり、主イエス・キリストが大変な苦しみの中、つまり、十字架の上でも満足を失うことがなかったのは、イエスはその先を見たからです。この十字架によって罪人に完全な救いをもたらすことが出来る。そして、人々がこの救いに与ることを見て、彼は十字架の上にかかっとうと決して満足を失うことがない、イザヤはこのように預言したのです。そして、私たちは、イエス・キリストの十字架の様子をみことばを通して知ることが出来ます。イエスがあの十字架の上でなされたことは、自分の運命をのろったり、神をの

ろったり、人々に悪口を言ったりすることではありませんでした。イエスはその中にあって罪人のために祈られ、彼らの救いを祈っておられたのです。

イエスがどんな時でもこの満足を持って歩いておられたことは明らかです。本当の満足を持って生きておられたこの方が、私たちにその満足を与え続けてくれるのです。ですから、パウロは大変な境遇に遭遇する時に人々のところに行こうとはしないで、神のところに行くのです。もし、皆さんが神ではないところにあなたの満足を求めていくなら、もう経験されているように、そこには答えはありません。一時的な慰め、励ましがあっても、このイエスの持つておられる満足を得ることは出来ないのです。この満足を与えることができるのは神です。

皆さん、このイエスの満足をクリスチャンであるあなたは神から頂いているのです。なぜ、それを無駄にするか？なぜ、神以外の所に行ってしまうのか？パウロがなぜあらゆる境遇にあって満ち足りていたか？彼はどこに行ったらその満足を持ち続けていくことができるのか？その満足を失うことのない秘訣は何なのかを知っていたからです。神のところに行かなければいけないのです。残念ながら、クリスチャンの多くの人々が神以外の所に行っているのです。だから、いつまで経っても心に満足がないのです。

2) 神の助けが必要であるということを学んだ

ピリピ4：13「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と続きます。つまり、パウロは「どのような境遇にあってでも満足を持つことができる、そのことを可能にしてくださるのは神だ」と言っているのです。神の力を頂いて私はどんな好きなことでも出来るということではありません。彼が教えていることは、どのような境遇にあってでも神が備えてくださったこの心の満足を持ち続けていくことができる、なぜなら、それを可能にしてくださるのは神の御力だということです。だから、パウロは「私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と言ったのです。

パウロがしたこと、また、パウロが教えてくれる秘訣とは、どんな時でも神の所に逃げ込むことです。神に助けを求めることが出来ました。そして、唯一全能のそのお方が、その力をもって彼の心を守ってくれたのです。だから、彼の心はこのように守られ続けたのだという証をしてくれるのです。そのような意味で、私たち信仰者はこのような祝福をもう神から頂いているのです。今パウロが言ったように、大変な迫害の中にあっても、いのちが脅かされるような境遇にあったとしても、今まで自分が大切にしていたものが全部なくなったとしても、それらのものに左右されることのない満足を持って生きることが出来るのです。でも、その満足を私たちが頂き続けるためには神を見なければいけないのです。神の所に助けを求めなければいけないのです。神の力によってのみ、私たちはそのような心の状態を保ち続けていくことができるのです。

◎三つの大切なアドバイス

1) 主がお喜びになる歩みを継続すること

あなたが主を見上げて、主の助けを頂きながら歩み続けるために必要なことは、あなたは常に主の前に正しく歩み続けて行くことです。主がお喜びになることを選択することです。もう何度も学んで来ているように、もし、神の祝福を頂きたいなら何をすればいいのかは明白です。神が喜ばれることを選択するのです。そして、あなたが神の前に喜ばれることを選択することは、神を愛する人たちはみな同意してくれます。私たちがよく聞くことは「これが神のみこころだ」ということですが、だれが見てもそれはみこころではないということが多くあります。私たちは「みこころ」ということばを使う時に注意しなければいけません。本当に神が喜ばれることなのか、あなた自身を喜ばせることなのか？と。も

し、神の祝福を頂きたいなら、パウロが言っているように、どんな時にでもあなたが心の満足を失うことなく祝福を頂きながら歩いていくためには何をしたらいいのか？覚えてください！主が喜ばれることを継続することです！イエスの歩みを見た時にどうでしたか？彼の歩みをひと言で特徴付けるとすると、それは「従順」でしょう！父なる神のみこころに徹底して従った、言い方を換えるなら、父なる神が喜ばれることを常に選択しそのように生きたのです。100%の従順です。だから、彼の心はいつもそのように満身に満たされていました。イエスの生き方を見る時に、私たちはそのことを学びます。

ですから、どんな理由付けをしようと、私たちがみことばを通して教えられることは、神の祝福を持って生きようとするなら、主がお喜びになることを選択する以外にありません。そして、あわれみ深い神は私たちに、私たちが間違っていることを示してくれるのです。それは喜びを奪うことによってです。病気の人は表情を見るとそうと分かりませんか？この間、宣教師の一人が扁桃腺を腫らしました。熱はなかったのですが、病院に行った方が良くということで連れて行きました。お医者さんは喉を見てひと言「扁桃腺が腫れています」と言いました。見たら分かるのです。素人の私たちにも、病気の人は熱っぽかったりしているんな様子を見て少しは分かります。

神はあなたを罪から救ってくださった、何のためにですか？神のすばらしさを世に証するためです。そして、そのために神は神が与えることの出来る満足をあなたにくださったのです。心の満足です。その満足を頂いているクリスチャンたちは、どんな時にあっても喜びを失うことがないし、その口にはいつも感謝があるのです。それによって私たちの神のすばらしさを世に証して行くのです。しかし、残念なことに、多くのクリスチャンたちがそのような生き方をしていないのです。答えは明らかです。それは罪が原因なのです。神が喜ばれないことを選択しているのです。間違っていることを選択するとこの喜びがなくなっていきます。満足が消えます。だから、私たち信仰者がいつもしなければいけないことは、自分の心を吟味してそのような罪がないかどうかを探ることです。分からなかったら信仰の友に聞いてみることです。彼らは教えてくれます。ですから、まず、私たちは神に喜ばれることを選択することです。

2) 常に主の最善を信じて信頼を失わないこと

「どうしてなのか?」、「これは最善と思えない...」と思うことがあります。でも、私たちは主を信頼するのです。私たちの主がどんな神であるかを知っているゆえに、私たちはどんな時にでも信頼するのです。私たちはパウロの生涯を見て「なぜ、盗人に遭うのでしょうか？なぜ、人から裏切られるのでしょうか?」と思います。でも同時に、そのすべてのことの背後にいる神を覚える時に、パウロ自身はすべてを神に委ねたのです。「神さま、私には分からなくてもあなたはすべてのことを分って、すべてのことを導いておられます。どうぞ、この出来事が私のうちに不信仰をもたらしませんように。」と、パウロはそうにして神の最善を信じて、神を信頼し続けながら歩んでいたのです。

3) 主への感謝を忘れないこと

先程も触れましたが、私たちは本当に神に対する感謝の少ない者です。1テ0モテ6：8に「衣食があれば、それで満足すべきです。」とあります。皆さん、心が痛くありませんか？神は十分に与えてくださっているのに、「もっとあれが必要だ、もっとあれが欲しい!」と言います。だから、いつまで経っても満足を得ないのです。必要なものはすべて与えられているのです。それに満足することです。それに感謝することです。コロサイ3：15にも「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。」とあります。このような命令が与えられているということは、やっていない人が多いということです。いつもだれか

と比較して、いつも不平不満を言っている、そのようなケースがないかどうかです。与えられていることに感謝することです。私たちの祈りの中に一つ加えなければいけないことは、「感謝の心を持つ人になりたい、与えられているすべてのことに...」です。そのような感謝の心を持っている人は、自分に起っているいろんな苦しみさえも感謝します。

パウロについて先程IIコリント11章のみことばを見ましたが、あのリストを見たときに、普通ならとてもこのようなことを神に感謝することはできないと思います。こんなに辛いことを神に感謝するなんてあり得ないと思ったでしょう。でも、パウロは感謝を失いませんでした。だからこそ、パウロはこう言ったのです。「感謝の心を持つ人になりなさい。すべてのことに感謝しなさい。」と。感謝できることに感謝するというのは当たり前のことです。でも、感謝できることに感謝していないのが私たちです。感謝できることだけでなく、人間的に見て感謝できないようなことも感謝しなさいと言うのです。皆さん、もし、あなたには今抱えている大変な苦しみがあるかもしれません。それは身体的なことかもしれないし、家族のこと、友人のことかもしれませんが、それらを思ってそのためにとりなすことはすばらしいことです。でも、あなたの中に神の前に感謝できないことがあるかないか探ってみてください。もし、「このことは感謝できない」と思うことがあるならそれを感謝し始めることです。なぜ、そんなことをするのでしょうか？

この方はあなたの最善を知っている神だからです。だから、感謝するのはです。あなたの生活に起こっているすべてのことは偶然ではないのです。神が愛をもって与えてくれているのです。その背後には私たちが知り得ないこと、神の完璧な知恵があります。だから、それを知っているから感謝するのはです。私の人生は私のものではない、神のものなのです。神がご自身のために導き用いてくださるのです。それを知っているから感謝するのはです。「感謝です、神さま！」と。だから、皆さん、私たちが納得するから感謝するものではありません。理解できたから感謝するのではないのです。私を導いてくださっている方が真の神だから感謝するのはです。神が私のすべてをその御手の中に置いて私を導いてくださっているから感謝するのはです。これがクリスチャンなのです。だから、パウロ自身が言っています。今、見て来たように「いつも喜んでいなさい。すべてのことに感謝しなさい。」と。なぜ、そのように言えたのでしょうか？パウロは神を知っていたからです。

不満とは、与えられていないこと、また、与えられていないものに対するものです。不満をもっている人はすでに与えられているものに対する感謝もありません。あのイスラエルの民を見た時に、神はマナを与えてくださった。でも、彼らは不満を抱いた時に、マナに対する感謝を失いました。そして、彼らは不平不満を言い続けるのです。「水が飲みたい。肉が食べたい。こんなことならエジプトで死んでいた方がましだ。」と言って、彼らは主の前に罪を犯し続けました。間違いなく、その当時のイスラエルの人たちの口には感謝はなかったでしょう。彼らの口から出て来たことばは不満に次ぐ不満でした。そして、その不満の矛先はどこに向いたか？自分たちをエジプトから連れ上ったモーセに向いたのです。ミリヤムがその一番のいい例でした。モーセの姉です。神は何をされましたか？彼女はらい病に犯されました。レビの一族であるコラは人々をそそのかしてモーセたちに逆らうようにしました。神が彼らに何をなされたか？コラと彼の陰謀に巻き込まれてモーセたちに逆らう選択をしたすべての人々は、神が開いた地の口から飲み込まれてしまいました。さばきを下されたのです。神から大きな祝福を頂いているにも関わらず、罪によってそのような祝福を逃してしまったと記されています。私たちは神への感謝を忘れてはいけません。

このように、確かに、みことばは私たちに主は私たちの内的必要、心の満足を与えてくれると、そのことを見て来ました。

B. 主が与えてくださる「物質的必要」に関して

もう一つ加えたいのは、物質的必要に関してもその必要を満たしてくださるということです。IIコリント9：8に「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」と書かれています。ここでパウロが教えているのは霊的なことではなくて、物質的なことです。この前後を読んで頂くとそのことがよく分かります。特に、ささげ物のことです。つまり、パウロが教えたことは、神はあなたがたを物質的に豊かにしてくださることによって、その物質的な豊かさによって必要な人々に答えていくことができるということです。そのようにできると言うのです。ですから、確かに、私たちはいろいろな必要を抱えながら日々生きています。物質的な必要です。でも、私たちの確信は神がこういう物質的な必要をちゃんと満たしてくれるということです。そして、私たちが自分の物質的な必要だけに目を留めてしまうなら、気をつけなければ、私たちから感謝が出て来ません。私たちがいつもどんな状況でも覚えなければいけないことは、自分のことよりも周りの人たちのことです。

パウロはいろいろな教会の例を私たちに示してくれました。マケドニアの教会の話がありました。非常に貧しい教会でした。でも、彼らがしたことは「我々は貧しいのだから、人々の献金を受けて当然です。」とは言わないで、貧しい中から神にささげたのです。その結果、神は彼らを祝されたのです。皆さんにも経験があるでしょう？一生懸命自分ですべてのことをやろうとして、あなたの生活から神を除いてしまったら、日頃の必要に関しても喜びがなくなって来ます。でも、私たち信仰者にはこのようにみことばが教えてくれているのです。神にささげる時に神がそれを喜んでくださり、神が祝してくださり、神が必要を与えてくださると。そして、この9章8節のみことばが教えたことは、神は必要を与えるだけでなく、あなたがその与えられたものを用いて人々の必要のために働くなら、神は益々あなたを祝して、あふれるばかりにあなたの必要を満たしてくれるということです。ですから、私たちは喜んでささげ続けていくのです。自分の状況がどうあろうともささげていくなら、神はそれを祝して、そして、豊かにあなたに祝福を与えてくださるのです。このような神だと言うのです。

先程から話しているように、確かに、神は我々の必要を満たしてくださるという確信を持って、主のみわざを期待しながら歩んでいる方はたくさんおられることでしょう。そして、私たちは確かに、神が必要を与えてくださったという確信を得ています。しかし、大切なことは、私たちが自分の必要だけに目を留めるなら、先程話したような問題に陥ってしまうということです。いつの間にか私たちから感謝がなくなっていきます。「もっとお金があればいいのにな...、もっと〇〇があればいいのにな...」と、すると、感謝がなくなり始めます。そして、心の満足がなくなり始めるのです。神は必要をくださるお方です。与えられた必要を私たちは用いて、他の必要のある人たちに答えていこうとするのです。

私たちクリスチャンは、自分のことよりも周りの人たちを見ているのです。イエス・キリストの愛がご自分のことよりも私たちを優先してくださったように、私たちも人々の必要に答えていこうとする時に、神はその行動に対してその選択に対して祝福をくださり、あなた自身の生活をこのような喜びにあふれさせてくださるのです。みことばはこのようにして私たちにどのように生きていったら良いのかを教えてください。

今日、私たちが見て来たことは、私たちクリスチャンに神はすばらしい祝福を約束してくれたことです。この神だけが、あなたの内的必要を満たし続けてくれます。心の満足は神しか与えることが出来ま

せん。そして、あなたはその神の所にいつも行くことが赦されたのです。思いませんか、クリスチャンの皆さん？いつも心の満足を持って生きていきたいと。それは可能なのです！でも、それをあなたが体験するためには、みことばが教えてくれるように歩いていかなければいけないのです。私たちは神の所に助けを求めなければいけないのです。私たちは神が喜ばれることを選択していくのです。そうして、私たちはこのクリスチャンに神が与えてくださった祝福を、日々味わいながら喜びながら歩いていくことができるのです。物質的な必要もちゃんと与えると言われました。でも、気をつけなければいけないのは、それを自分の必要だけにあてがおうとするのではなく、人々の必要に使っていこうとするのです。そうすると、神はあなたにより多くの必要を与え続けてくれるということです。

このような神によって私たちはこの救いに与りました。今日、皆さんとご一緒にぜひ覚えたいこと、それは、このような神がこの地上における必要を満たしてくださっていること、そして、もう一つ、今、私たちは神はあらゆる必要を満たしてくださるということを見て来ました。確かに、地上において私たちが生きていくために必要なすべての必要を神はこのように満たしてくださる。同時に、永遠に関することについても満たしてくださったということです。あなたが天国に入るために神はすべてのことをしてくださいました。地上の生活においても、神はあなたの必要を満たしてくださる、それだけでなく、天国に入るための必要もすべて満たしてくださったのです。あなたが頂いた救いがそうです。あなたが何かをしたからではありません。神があなたを救ってくださったのです。ヨハネの福音書10：28にはこのように書かれています。「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」。神があなたに永遠のいのちを与えてくださった、あなたは決して滅びることがないと言うのです。

ですから、今日、クリスチャンの皆さん、このことを覚えてこの一週間を歩いていきましょう。

(1) 神は私のすべてのあらゆる必要を満たし続けてくださる。私の内的必要も物質必要もすべての必要を。その方の所に私たちは出て行くことができます。そして、その方が教えてくださるよう私たちが歩いていくなら、この祝福を今日私たちは実際に体験しながらこの神を証していくことになるのです。(2) そして感謝なことに、地上の必要だけでなく永遠の天国に入るすべての必要も主が備えてくださりそれを与えてくださったのです。だから、私たちは天国に入るその日を心待ちにしながら今日を生きるのです。

クリスチャンってすごいと思いませんか？この地上の生活もこうして全能の神によって導かれるし、この生活が終わった後、その先には神が備えてくださったすばらしい天国が待っているのです。そして、あなたはそこに行くのです。あなたは間違いなくそこに行くのです。神が備えてくださったから。私たちクリスチャンはこんな祝福を頂いたのです。もっと喜ぶべきだと思いませんか？もっと感謝すべきだと思いませんか？そして、もっとこの方のことを伝えていくべきだと思いませんか？

《考えましょう》

1. クリスチャンはいつも満足を持って生きることができるのでしょうか？
2. どうすれば、満足を持ち、喜びを持って生きることができるのでしょうか？
3. 不満に勝利するにはどうすれば良いのでしょうか？
4. 主はあなたの「ことば」と「知識」に働かれます。どれはどうしてでしょうか？